



OsakaMetro 谷町線 大日駅より徒歩5分  
 大阪モノレール 大日駅より徒歩5分  
 OsakaMetro 谷町線 3番出口より直進

守口市立図書館 〒570-0003 守口市大日町2丁目14番10号 | 休館日 毎週火曜日 | HP <https://www.lics-saas.nexs-service.jp/moriguchi/>

## 気骨の作家 田島征彦が染め上げる！ - 絵本原画と型染の世界 - 展

展覧会

会期 | 2021年4月3日(土)～4月29日(木/祝)

開館時間 | 10時～22時

会場 | 1階交流スペース、1階郷土資料室、3階スタジオ1・2など

記念講演会 ※先着事前予約制

開催 | 2021年4月24日(土)

時間 | 14時～15時半

場所 | 1階交流スペース

定員 | 80名

申込 | 2021年4月3日(土)11時より受付開始

守口市立図書館生涯学習フロア TEL06-6115-5475 または、守口市立図書館3階窓口にて受付

料金 | 展覧会、講演会ともに無料 備考 | 詳しくはホームページをご覧ください。



田島征彦 記念講演会 定員80名(要予約)

4月24日(土) 14時～15時半

喧嘩の中で 2013年 型染 250×1400cm 撮影：中川純一 (作品一部分)

子ども読書活動推進事業

守口市立図書館一周年記念

# 気骨の作家 田島征彦が 染め上げる！



「絵本原画と型染の世界」展

会期2021年4月3日～4月29日

# 生命力ある表情リズム



神輿振り 2013年 型染 150×1250cm 撮影：中川純一（作品一部分）

**14mの大作品が登場！4月24日には記念講演会・サイン会を開催！**  
 子ども読書活動推進事業及び守口市立図書館一周年記念として、作家の田島征彦氏の展覧会と講演会を開催いたします。展覧会では、代表的な型染作品や新作「せきれい丸」の絵本原画を中心に展示し、1階交流スペースには約14mの大作品が登場します。また、会期中の4月23日は、子どもの読書活動についての関心と理解を深め、積極的に読書活動を行う意欲を高める「子ども読書の日」と定められています。これを記念し、4月24日（土）に田島征彦氏の講演会を開催いたします。代表作「じごくのそうべえ」や「祇園祭」なども含め、絵本が誕生するまでのお話を語っていただきます。講演中には、田島征彦氏による迫力ある絵本の読み聞かせも実施いたします。田島征彦氏の世界を心ゆくまでお楽しみください。

# ミカルに謳う田島節。

Yukihiko Tajima -  
**田島 征彦**



## ご挨拶「守口市立図書館一周年を迎えて」

昨年六月一日。これまで公立図書館がなかった大阪府守口市に初めて、図書館法に基づく図書館として「守口市立図書館」が開館しました。当初は、四月一日開館予定でしたが、コロナ禍の影響で、サービスを一部制限しての開館となりました。守口市民そして関係者の皆さんの熱い思いの賜りでの待ちに待った開館でした。私たち、この館を預かるスタッフも、その熱い思いに込めて、素晴らしい図書館にしていこうと、コロナ禍のなか誠心誠意取り組んでまいりました。この開館一周年を記念して、絵本作家の田島征彦さんに展覧会と講演会をお願いしたところ、ご快諾頂くことができました。代表作「じごくのそうべえ」など、誰もが一度は出会ったことのある、日本を代表する絵本作家さんです。作品が誕生するまでのお話やご本人自らの読み聞かせ、原画展などの本物の迫力は、子どもたちにも一生忘れられない思い出となるものと思います。どうぞお楽しみください。

守口市立図書館館長 園田安男

## この展覧会のこと

守口市の子ども読書活動推進事業と守口市立図書館開館一周年記念展に、図書館の賀門利智さんから、田島征彦展を開催したいとの相談を受けました。賀門さんは染色作家として旺盛に活躍する傍ら、現代染色芸術の面白さを、広く世間に紹介したいというその心意気やよし、とお手伝いすることになりました。私自身がテレビの制作現場で田島さんの絵本で育ったという若者たちと作業してきた経験や、個展会場では熱狂的なファンのお母さん方の人垣にも圧倒させられるこの特異な作家の存在感を、もともとと多くの人たちに実感していただきたいの思いは、しごく当然だからです。

超ベストセラー『じごくのそうべえ』シリーズを筆頭に、田島さんの作品は絵面（えづら）の面白さ、色彩の豊富さ、ことば遣いの巧みさ、着想の奇抜さ、そのいずれを取り上げてファンタジーに満ちあふれて、お子たちの自尊心をくすぐり、読み聞かせるお母さんをも共感させる世界だったに違いありません。言葉のリズムから色を、色遣いのあやからは音楽を感じたり。それは、着想、物語の展開、情景描写の隅々に行き渡り、大団円へと、息も継がさぬテンポで、ダ、ダ、ダーツと押し寄せて来ます。この迫力は、子供たちにはたまらない快感なのです。

『そうべえ じごくのそうべえ』は、着想から物語の落としどころが見付からなくて数年を要した、ご本人から聞いたことがあります。最後にとうとう、そうべえ養まみれ、というアイデアに思い至り一気に解決したのだと、産みの苦しみに苛（さいな）まれた経緯を聞いて、それはまさしく格闘しているわけです。新作の『せきれい丸』でも、制作依頼を受けてからやはり十年間、ストーリーテラーとしての目録の置きどころに、ご苦労されたという裏話を紙面で読み、腑に落ちました。

忘れられない出来事に遭遇しました。作者自身による『じごくのそうべえ』シリーズの読み聞かせを、この目で見聞して、感涙しました。スクリーン一杯に拡がる、生命力ある男の表情、リズムミカルに謳（うた）う田島節。へヒュルヒュルひゆるりつと、と裏声で叫んで、軽業師そうべえが高所から真つ逆さまに落下する擬音効果は満点！引きずり込まれてほくは心中で（ひえーっ）と叫んでおりました。というのも、田島さんはその昔、京都美大（現京都市立芸大美術学部）の染織専攻の後輩で、しかも劇団美大アトリエ座で同じ釜の飯を喰った仲間でした。シラーの原作を翻案した久保栄「吉野の盗賊」で彼はチョイ役の見張り番、山頂の木によじ登り「あれ、見えます、見えまするさう」と敵勢が迫る危機なのに台詞棒読みして失笑を買った場面が蘇ってきて、この迫真の表現力との落差に愕然としたからです。観客席の子供たちのキャッキヤと上がる歓声。絵本は静止画ですが、動画どころか、主人公は画面から飛び出して、いまここに、時空を超えて駆け巡る——そんな希有な体験も、味わって戴ければと思います。

清水忠（デザイン・プロデューサー）



出版（株）童心社



出版（株）くもん出版



言葉の **リズム** から色を、色遣いのあやからは **音楽** を感じたり それは、着想、物語の展開、情景描写の隅々に行き渡り **ダ、ダ、ダーツ!**